

## 令和3年度（補正予算）

### 関係人口創出・拡大のための対流促進事業 （中間支援組織の提案型モデル事業）

#### 事業の実施結果 （概要）

団体名	特定非営利活動法人 ezorock
事業名	オンライン関係人口フェス「リレーションズフェス（通称：リレフェス）」 からはじまる関係人口プラットフォーム構築事業

- 参加者と地域で活動する人が**バーチャル空間**の中で双方向にコミュニケーションする**オンラインフェスティバル**を実施。
- 自治体担当者や地域団体で活動する方と都市部の若者による計22名の**実行委員会**を結成。50回以上の会議を通して、双方のニーズに寄り添った運営を行った。
- フェスティバル後、定期的に情報が流れる**オンラインコミュニティ**を形成し、現地での活動につながるしかけをつくった。

## 主な活動内容

### 1. 実行委員会の実施（事前）

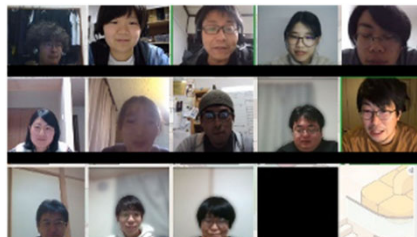
- 自治体や地域で活動する団体、関係人口に関心を寄せる都市部の若者によって組織した実行委員会を2か月半実施し、地域、参加者双方のニーズを汲みながらリレフェスを準備した。

### 2. オンライン関係人口フェス「リレフェス'22」の実施（当日）

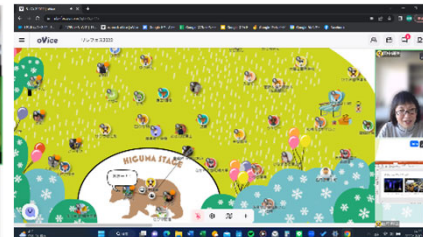
- 12月10日～11日にバーチャル空間上でイベントを実施した。  
出展：14団体(13地域) / 参加者：延べ176名
- 最新の関係人口の取組を知ることができる基調講演や分科会、自治体や関連団体(出展者)による取組の紹介及びマッチングの時間を設けた。
- 運営の全てを実行委員が担い、手作りのフェスを作り上げた。

### 3. フォローアップの実施（事後）

- リレフェス出展者と参加者をつなぐオンラインコミュニティなどを通して情報を届け、その後の活動につなげるサポートを行った。



若者が主導する実行委員会の様子



ゲスト講師による基調講演の様子

## 主な成果

### 1. 参加者や地域の声 “地域同士の知見を交流する場にも”

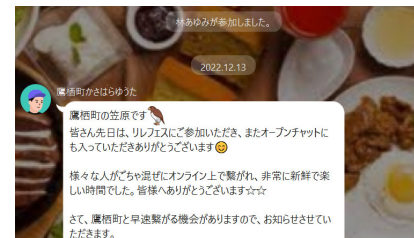
- 双方から「オンラインなのにぬくもりが感じられた」「次年度も参加したり継続的なつながりを持ちたい」という声が多数あがった。
- 特に地域側からは、参加者との交流についてはもちろんのこと、「他自治体の事例を知る機会は少ないため貴重だった」等の声もあがり、実際にその後の視察など事例交換につながった。

### 2. バーチャル空間活用の工夫

- 参加者、出展者ともにバーチャル空間を初使用の者がほとんどだったが、事前説明会や試入場期間を設けることで、立ち話やリアクションなどバーチャル空間ならではの交流を生み出すことができた。

### 3. 事業を通じて得られた気づき “日常的なオンラインの活用”

- 特に遠隔地では、他地域とのつながりや地域内での集まる場所の確保が難しくオンラインを活用していきたいが、一地域ではコスト面やノウハウの少なさから環境整備が難しい場合があるとわかった。

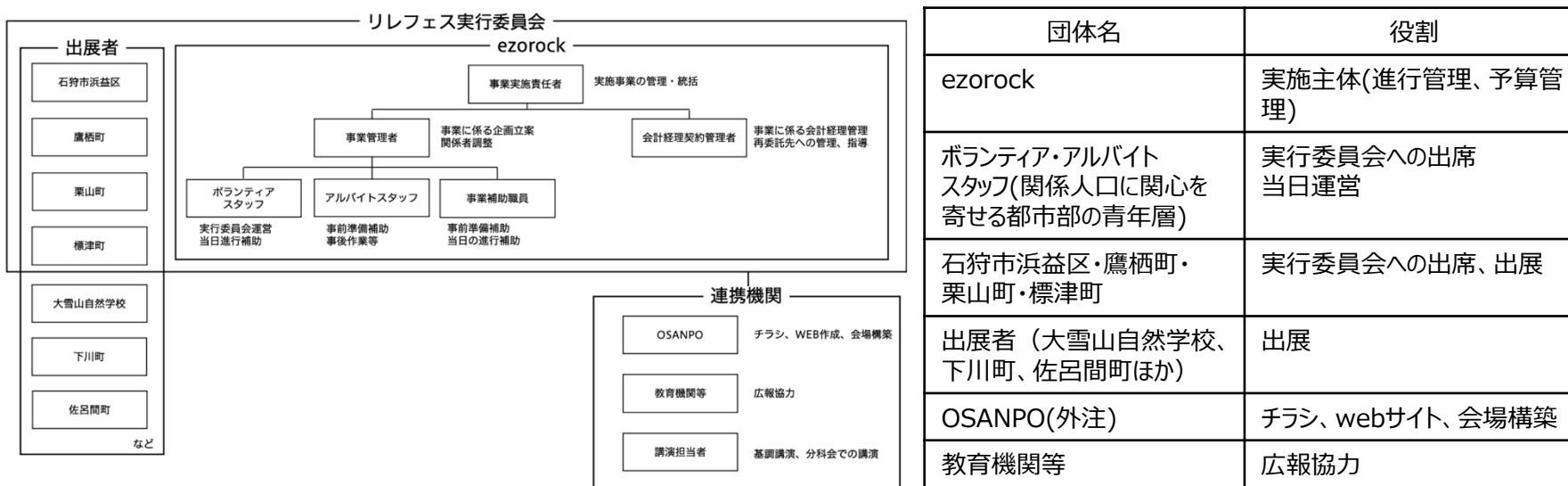


地域ごとのオンラインコミュニティでの様子



リレフェス後の情報提供

## 事業実施体制・関係機関



## デジタル分野に関する取組状況

### 事前説明会・セルフチェックインの実施

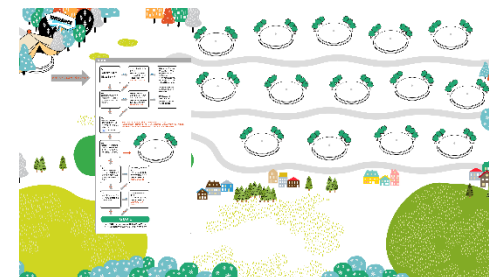
- バーチャル空間に慣れていない出展者や参加者が大半だったため、出展者には事前説明会への参加を必須とし、使い方をレクチャーした(計5回実施)。また、セルフチェックインと称した試用期間を1週間設け、参加者、出展者の多くが自ら本番同様の環境に入室し、バーチャル空間での動きやできることを確認した。これにより、オンラインへの抵抗感を軽減させ、つながりを創出した。

### バーチャル空間ならではの双方向性と入場口での工夫

- バーチャル空間「oVice」を使用。参加者自身が会場内を自由に動き、地域の方と直接対話する機会を設けることができた。また、拍手や立ち話のような他の会議ツールではできないリアクションにより、より臨場感のある会場を作り出すことができた。
- 入場口にはスタッフが常駐し、入場後すぐに参加者ひとりひとりへ声をかけることで、会場内で話してもいい、自由に動いてもいいという雰囲気醸成した。

### 顧客管理(CRM) ツールを活用したフォローアップ

- 顧客管理(CRM) ツール「HubSpot」を活用したことで、出展者、参加者のメール開封の有無やアンケートフォームへの回答有無を事務局側で把握し、個別にきめ細かなフォローアップを行った。
- このため、特に出展者について応募後の離脱が一団体もなかった。



セルフチェックイン会場(右側には参加者自身が音声や動きを確認できるチェック項目を設置)

## 次年度以降の事業展開

### 年に一度の交流の場としての文化醸成

- オンラインフェスティバル“リレフェス”は次年度以降の開催や実際に地域への訪問を望む声も多い。
- 毎年恒例となっている祭りのように、毎年12月には本イベントで1年間の活動を報告したり、他地域と交流したりする機会として北海道内に文化のように定着を目指していきたい。

### デジタルデバイトの解消から日常的な繋がりへ

- 事後ヒアリングの中では、「普段から本イベントのようにオンラインで関係人口創出や近隣地域とのつながりづくりができるといい」という声が多数あがった。
- 特に地域同士が遠い北海道でのオンラインの活用は必須であり、一地域での活用はハードルが高いが、まずは丁寧なサポートのもとで参加しオンラインツールに慣れながら、デジタルデバイス解消へとつなげていきたい。

	区分	金額	内訳
支出の部	物品費	150,000	資料発送
	人件費	570,000	事務局運営費
	諸謝金	180,000	講師謝金(30,000×6人=180,000)
	旅費	250,000	ヒアリング・事後サポート等(50,000×5回)
	委託費	200,000	各種デザイン費
	印刷製本費	100,000	オンラインイベント用配布資料等印刷費
	通信運搬費	100,000	資料郵送代
	その他	100,000	CRMツール使用料、バーチャル会場使用料
	合計	1,650,000	

	区分	金額	内訳
収入の部	事業収入	1,650,000	出展料(30,000×10団体=300,000) 会費(50,000×20団体=1,000,000) 参加費(1,000×200人=200,000) 広告費(30,000×5団体=150,000)
	合計	1,650,000	

自走後の収支計画イメージ

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
オンラインコミュニティへの情報提供	必要に応じて実施									
オンライン・現地での活動サポート	必要に応じて実施									
バーチャル空間の活用	検討			準備			試用			
実行委員会の実施					募集	実施				
オンラインフェスティバルの実施							出展・参加者募集	開催		
事後フォローアップ									実施	
CRMツールの活用	情報提供・問い合わせ対応などで随時活用									

実施スケジュールイメージ

## 自立・自走化にあたっての課題

### 分散型の運営体制へ

- 今回は、運営事務局が主導的に運営を行ったが、参加する人々と共に作り上げながら、運営にかかるコストを分散していく必要がある。
- 出展者が実行委員会へ参加するなど、本イベント運営への参加が、北海道の多地域にとって恒例行事となるような仕組みづくりを行いたい。

### 運営費の捻出に向けた課題

- 本来、自走のための収入源は出展料を想定していたが、出展自治体、団体へのヒアリングによりイベントへの出展料としての捻出は難しいのではないかという声の一部があがっている。
- 一方で、北海道内の関係人口創出に関わる協議会のようなものを組織し、会費という形で負担金を捻出しながら、通年でバーチャル空間を使えるなどのメリットも持たせ、各地域がフェスティバル運営に関わっていく案が出ていることから、体制整備に向けた検討を進める。